

＜学校経営方針の重点＞

- | | |
|------------|---------------|
| 1 豊かな心の育成 | 2 基礎学力の向上 |
| 3 家庭地域との連携 | 4 特色ある教育活動の推進 |

A よくできている B まあまあできている C あまりできていない D できていない

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	教師の自己評価	学校関係者評価記入欄		学校の見解と改善策
						評価	コメント	
豊かな心の育成	思いやりあ子育成 思いやりの供育する。	東京都人権尊重教育推進校として、ハートフル河辺プラン(人権教育の実践)の充実を図る 道徳の時間を要とし、自分を大切に、他者を思いやる心・地域や社会に貢献する態度を育てる。	思いやり・生命尊重・勤労などを重点化し、日々の道徳授業を一層充実させる。	A 30.0% B 60.0% C 3.3% D 0.0% 無 6.7%	○道徳の授業に人権を組み込み、国語や生活の中でも、考えた。 ○ハートフル合言葉を個人や、クラス全体で考えた。 ○通級では、自立活動の中で自己肯定感の育成を図っている。	A 62.5% B 25.0% C 0.0% D 0.0% 無 12.5%	○登下校時の安全パトロールや地域のお祭り等の行事を通して児童を見るに、友達に対する思いやりや優しさを感じる。 ●家庭・地域へ理解を高める活動の推進を図ってほしい。	◎日々の道徳授業の充実を図るとともに、家庭・地域との連携を図り、心の教育を推進していく。
			正しい言葉づかい(くん・さんづけ)の徹底を図る。	A 40.0% B 50.0% C 10.0% D 0.0% 無 0.0%	○クラス全体でも呼び捨てに敏感になり、なくなってきた。 ●適宜指導をしているが、なかなか浸透しない。 ●児童の自己評価結果から意識の低いのがわかった。指導を徹底する。	A 50.0% B 50.0% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	●スポーツなどに参加する子供たちは、呼び捨てが多い。 ●相手を思いやる心、言葉の基本形を身につけるため、家庭や地域であいさつできる協働での環境づくりが大切。	◎あいさつ・返事・言葉遣いなど、言語についての意識を高め、言語の環境整備を図っていく。
			月ごとの生活指導目標をもとに、きまりを守り、あいさつ・返事などが、きちんとできるように規範意識をはぐくむ。	A 26.7% B 66.6% C 6.7% D 0.0% 無 0.0%	○月ごとの目標を週ごとに重点化して取り組み、意識化していった。児童は廊下歩行など、きまりを守った。 ●あいさつ、返事が全体として、あいまいになりがちであった。教師が手本を示し、学級全体に徹底していく。	A 62.5% B 37.5% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	○あいさつのできる子供が多い。 ○児童は朝「おはようございます。」日中は、「こんにちわ」とよくあいさつしてくれる。 ○廊下ですれちがったとき、私たちにもあいさつする児童が増えてきた。	◎家庭や地域の一層の連携を図り、一人一人の地域員としての意識を付け、社会貢献態度を育っていく。
			学校や地域・社会にかかわるボランティア活動の充実を図る。	A 23.3% B 33.3% C 23.3% D 3.3% 無 16.7%	○あすなる会の人たちと一緒に校庭をきれいにする活動を行い、意欲的に参加した。 ●3学期に自分たちにできることを考え、ボランティア活動させたい。	A 37.5% B 50.0% C 12.5% D 0.0% 無 0.0%	○水辺のフォーラムに毎回多くの先生が参加し、環境を大切にする気持ちを育んでいる。 ●地域での活動に保護者に積極的に参加する動機づけを行ってほしい。	
			教師の人権感覚(言語・掲示物等)を磨き、教師と子供との心の交流を図る。	A 40.0% B 60.0% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	○掲示物に誤りがないかを確認し、作品にコメントをつけて掲示した。 ○日記や声かけを通じて心の交流を図った。 ○学習を振り返られるよう掲示を工夫している。	A 75.0% B 25.0% C 12.5% D 0.0% 無 12.5%	○教師の熱意がとても感じられる。 ○先生方の言葉遣いは非常にいいで、子供たちの良い手本になっていると思う。掲示物も見やすく大きく書いてあり、配慮がうかがえる。	

＜学校経営方針の重点＞

- | | |
|------------|---------------|
| 1 豊かな心の育成 | 2 基礎学力の向上 |
| 3 家庭地域との連携 | 4 特色ある教育活動の推進 |

A よくできている B まあまあできている C あまりできていない D できていない

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	教師の自己評価	学校関係者評価記入欄		学校の見解と改善策
						評価	コメント	
基礎学力の向上	基礎学力の定着を図る。	学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	指導方法（発問・板書）や学習形態など、授業を日々工夫し、ねらいを達成し、よくわかる授業を実践する。	A 33.3% B 60.0% C 0.0% D 0.0% 無 6.7%	○毎回の授業で振り返り、児童の反応をもとに改善点を挙げ、次に生かす工夫をした。 ○見やすくわかりやすい板書を心がけた。 ○子供の心と知識を豊かにする本を選定し、多くの本を読み聞かせした。 ○ノート、板書、パソコンを活用し、興味に合わせた授業を行っている。	A 87.5% B 12.5% C 0.0% D 0.0% 無 12.5%	○昔と比べ学習方法が違い、非常にわかりやすくてよいと思う。 ○板書もきれいに、ていねいに書かれており、ポイントをおさえた授業は見えてわかりやすかった。授業風景を見ていて、工夫のあとが見られる。	◎授業時間の確保と指導方法の工夫を行い、基礎学力の向上を図る。 ◎児童一人一人を大切にしてくれた、よくわかる授業づくりに努める。
			計算タイムの実践を分析、評価し、基礎学力を定着させるとともに、学習の日常化を図る。	A 43.3% B 33.3% C 3.3% D 3.3% 無 16.7%	○間違いはすぐに直させ、つまづきを常に確認し、指導した。 ○毎日100問計算を3分間の制限時間で行い、一人一人の成長を実感できるようにした。 ○計算タイムで、課題があったときは、宿題を出し、課題の克服を図った。	A 75.0% B 25.0% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	○学力を定着させるために、間違いをすぐに直させ理解を深めたり、児童の実態に合った問題の作成など、基礎学力の定着、向上のために工夫している。 ○「継続は力なり」との言葉にあるように今後も続けてほしい。	◎体験的な学習活動を積極的に取り入れ、達成感・達成感の得られる授業を行っていく。
			体験的な学習活動を取り入れ、学ぶ意欲を高める。	A 40.0% B 56.7% C 0.0% D 0.0% 無 3.3%	○草笛教室、校庭の葉っぱの学習、昔遊びの学習など、児童が意欲的に取り組めた。 ○稲刈り、見学、交流会の準備など、体験活動を多く取り入れた。 ○通級指導では、料理、工作等、様々な体験活動を取り入れた。	A 75.0% B 12.5% C 0.0% D 0.0% 無 12.5%	○限られた時間の中で、五感や体で感じる学習活動は、意欲を高めることになるので、今後も多く取り入れてほしい。 ●これから「英語」「理科」にも力を入れてもらいたい。	
			校舎内外（教室・廊下・学年掲示・学級園・畑等）において、学ぶ意欲を高める環境づくりを図る。	A 33.3% B 60.0% C 6.7% D 0.0% 無 0.0%	○学級、学年園で数々の野菜を育てた。水遣り、観察などすすんで活動した。 ○教室内の整理・整頓に心がけ、落ち着いた環境で学習に取り組めるようにした。 ○やさしい心の潤いと学習意欲を高めるため、掲示物の工夫や、草花や季節の飾りを配するなど、校舎内外の環境づくりに努めた。 ○詩の視写を毎月続け、掲示した。 ●畑での活動があまりできなかった。	A 62.5% B 37.5% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	○掲示物の配慮はよいと思う。 ○学級園や畑は草取りなど整備が行き届いている。 ○取り組みの様子や楽しさが写真等で掲示され、来校者にもよくわかる。	◎来年度も、児童の学ぶ意欲を高める環境を整えていく。

<学校経営方針の重点>

- | | |
|------------|---------------|
| 1 豊かな心の育成 | 2 基礎学力の向上 |
| 3 家庭地域との連携 | 4 特色ある教育活動の推進 |

A よくできている B まあまあできている C あまりできていない D できていない

	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	教師の自己評価	学校関係者評価記入欄		学校の見解と改善策		
						評価	コメント			
家庭・地域との連携	家庭地域との信頼を深め、開かれた学校づくりを図る。	家庭・地域への説明責任を果たし、地域の教育資源を生かしていく。	学校・学年・学級だよりを工夫したり、ホームページを順次更新したりして、教育活動の様子を家庭・地域によくわかるように適切に伝えていく。	A 33.3%	○学級便りに児童全員の作品を多く載せることで、学習内容を家庭でも把握できるようにした。 ○児童の学校での様子がわかるように、定期的に写真や感想文、学習の流れなどを載せている。 ○HPの学年写真等、たくさん載せるようにした。	A 87.5%	○河辺小の便りやHPを見て、学校の様子がよくわかる。特に、「あゆみ」を自治会の回覧板で回しているのは、小学生のいない家庭でも河辺小の内容がわかり、よい。 ○HPは昨年より改善されている。 ●HPでは、トップページに“NEW”等の表示を入れるとよい。	◎家庭や地域へ教育の様子を伝えるため、学校からの便りやHP等をより一層工夫し、充実を図っていく。 ◎来年度も、家庭や地域の声を聞き、参考にし、積極的に教育活動に生かしていく。 ◎地域の人材や施設等をもっと活用していきけるように工夫し、指導計画を作成していく。		
			児童による評価、学校運営連絡協議会での話し合い、学校関係者評価などを全教職員で共通理解し、児童・家庭・地域の声を教育活動に積極的に生かしていく。	A 16.7%		○学級便りの一言感想を授業参観や行事の際に保護者から聞き、参考にしている。 ○様々な話し合いを全教職員で共通理解することができた。 ●評価は行ったが、今後の活動に生かしていくところまでは至っていない。			A 50.0%	○児童の声をよく取り入れている。 ○評価に対して改善の様子が見られる。 ●児童による評価で「D」評価の項目10%を超えているものは、ぜひ、声かけ等、気にとめて指導してほしい。
			各学年において、学期に二度程度、地域の人材や施設等の活用を図った指導をしていく。	A 23.3%		○「あすなる会」の方たちには、昔遊びで大変にお世話になった。 ○自然アカデミーの方と校庭を歩き、校内にある自然を再認識した。 ○学区内の工場を保護者の協力で見学することができた。 ○盲導犬理解授業を地域の方を招き、行った。 ○羽村特別支援学校の先生による、副籍児童の理解授業を行った。			A 62.5%	○五丁目のあすなる会と1・2年生で3回、校庭の掃除と遊び会を行った。あすなる会、子供共に楽しく過ごすことができ、このような事から地域との連携を図っていけばよい。 ○意欲的に取り入れている。 ○地域での自然体験や公共施設の見学等を通して、集団の一員としての自覚や資質を高める活動を継続してほしい。

＜学校経営方針の重点＞

- | | |
|------------|---------------|
| 1 豊かな心の育成 | 2 基礎学力の向上 |
| 3 家庭地域との連携 | 4 特色ある教育活動の推進 |

A よくできている B まあまあできている C あまりできていない D できていない

	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	教師の自己評価	学校関係者評価記入欄		学校の見解と改善策
						評価	コメント	
特色ある教育活動の推進	多摩川に近い立地条件、青梅マラソンの受付校という特色を生かした教育を推進する。	河辺川原での自然体験活動やマラソン大会などを充実させる。	生活科や総合的な学習の時間等で、多摩川での自然体験活動を位置づけ、動物(野鳥・昆虫)・植物観察・環境理解学習など、各学年で工夫して実践していく。	A 30.0% B 40.0% C 6.7% D 10.0% 無 13.3%	○自然環境アカデミーの方を招き、多摩川での野鳥観察や自然観察を行った。 ○日本野鳥の会の方を招き、野鳥の学習を行った。 ●3学期に行う際に子供たちの意識を高めていきたい。	A 37.5% B 50.0% C 0.0% D 0.0% 無 0.0%	○地域の環境を生かした特色ある取組がある。 ○アゲハチョウの羽化の観察は、児童にとっても興味のある内容だったと思う。 ○ヤマメの飼育を私も実行していた。今後も児童への学習支援を頑張ってほしい。 ●多摩川での体験学習をもっと取り入れていただきたい。	◎学区内にある多摩川での体験学習をもっと取り入れ、豊かな自然とかわりをもつことで、環境についての理解を深めていく。
			地域との連携を深めるとともに、愛鳥博士(愛鳥博士テストへの積極的な参加)や自然観察リーダーを育てていく。(愛鳥モデル校)	A 16.7% B 43.3% C 23.3% D 3.3% 無 13.3%	○愛鳥博士テスト受験へ向け、クラス全体で鳥の名前の暗誦、図鑑調べなど、取り組んだ。 ●各教室に野鳥図鑑などを置き、いつでも調べられるようにしたい。 ●リーダーを育てるまでにはいかなかった。	A 62.5% B 12.5% C 25.0% D 0.0% 無 12.5%	○河辺小学校として、特色ある取り組みが見られる。 ○愛鳥標語やポスターコンクールなどで入選するなど、普段からの生き物に対する取組がうかがえる。子供の心の成長にプラスになると思う。 ○この活動はとにかく素晴らしい。	◎来年度も、愛鳥博士や自然観察リーダーを育成していく。
			運動の日常化を奨励し、健康の増進・体力の向上を図るとともに、青梅マラソン(ジュニアロードレース大会)への参加を推進し、本校のマラソン大会、なわとび大会等を充実させる。	A 30.0% B 53.3% C 6.7% D 0.0% 無 10.0%	○体育の時間に5分間走の距離やなわとびの1分間の回数の記録更新に取り組ませた。 ○体育以外でもマラソン大会へ「向けて走る機会を作った。 ○中休み、一緒に大縄をするなど、積極的に体を動かすようにさせた。 ○ジュニアロードレースの参加者を増やした。 ○地域行事への参加を積極的に呼びかけている。	A 75.0% B 12.5% C 12.5% D 0.0% 無 0.0%	○環境もよく、運動方面の奨励は素晴らしいと思う。 ○いろいろ工夫して努力しているのがわかる。 ○青梅マラソンに職員も参加し、意識を高めている。 ●全体的に体のバランスの悪い子供が多く見られる。体力づくりを充実させてほしい。 ●授業以外の時間にも多く児童と接する機会をつくり、さらにコミュニケーションを図ってほしい。	◎体育授業をはじめ、マラソン大会やなわとび大会など、運動の日常化を図り、体力向上に努める。